

Y08b 「天文教育・その他」の論文はどこに投稿すればよいのか？

縣 秀彦 (国立天文台)

日本天文学会年会の講演分野は現在 19 分野あり、「天文教育・その他」セッションは 1994 年秋に「天文教育」セッションが設置されて以来、講演数が増え続けている（注：1997 年秋より「その他」と一体になり「天文教育・その他」セッションとなる）。本来、学会での講演はその研究を論文として出版する過程での中間作業として一般には捉えられている。しかし、日本天文学会の論文誌 PASJ には、投稿論文種別に天文教育や天文アウトリーチ研究といったカテゴリーはなく、講演者の知る限り「天文教育・その他」講演が PASJ に投稿され論文になったという例はない。また、「天文教育・その他」の講演が他の学会誌等に掲載された例を調べてみると、査読論文として出版された例は少なく、この分野の多くの貴重な研究成果が日の目を見ることなく中途半端な状態で終わっていると推察される。ただし、本セッションでの発表内容を論文にすることは必須かという議論も当然あり、共通認識の形成が今後必要ではないかと考えた。

日本天文学会会員のなかにも天文教育や天文学に関するサイエンスコミュニケーション（例えば広報やアウトリーチなど）に関わる実践活動や研究をしている会員が含まれている。研究者のキャリアパスを考慮した場合、本分野の研究アウトプットのあり方について、日本天文学会における「天文教育・その他」分野の論文投稿の今後の可能性と、天文教育普及研究会誌「天文教育」の他、日本地学教育学会、日本科学教育学会、日本サイエンスコミュニケーション協会等の論文誌への投稿のメリット・デメリットも含め総合的に議論する。